

WORLD YOUTH DAY(世界青年大会、以下 WYD)に行ってきた

ホン・ユンハク神父

WYD を準備しながら感じた私の感情は恐怖でした。すべてが不慣れな環境で、初めて経験する信仰の旅程に対する恐怖があまりにも大きかったのです。このような恐怖を持って WYD 旅程の第一歩を始めました。それでも「京都教区の青年たちと時を共にする」と思って、少しはその恐怖を振り払おうとしました。しかし羽田空港で、京都教区の青年たちと共に過ごすグループではなく、初めて会う青年たちとのグループで WYD の期間を過ごすという知らせを聞いて、その恐れはさらに大きくなりました。「どうすれば私はこの若者たちと一緒に神様に会えるのだろうか」、「どうすればうまくやれるのだろうか」。

本大会が始まる前にコインブラ教区で過ごした時間は、私にとって少し残念な気持ちとして残りました。他の青年たちはそれぞれホームステイ家庭で家族と一緒に時間を過ごしましたが、私は本部に割り当てられてホームステイではなく、毎日の日程を確認して調整しながら過ごしたからです。しかし、この時間もやはり残念さと共に満足の時間でもありました。なぜなら、毎晩本部の司祭たちが「どうすれば青年たちがもう少し意義深い時間を過ごせるだろうか?」、「どうすれば青年たちがもっと多くの体験ができるだろうか?」と悩みながら交わした時間によって、本大会でグループをよりよく世話ができ、計画的な旅程を過ごすことができたからです。

リスボンでの本大会は、コインブラ教区の日程より体力的にもっと大変で、より多くのことを黙想して考えさせる時間でした。本格的にグループと共にする旅程で、恐怖を乗り越えなければならない時間でした。そして時間が経つにつれて、恐怖が新しい喜びに変わるのを感じることができました。教区の青年たちが互いに準備し、一緒に交わした3日間のライズアップ。教皇様の歓迎式、教皇様と共にする十字架の道行き、徹夜の祈りと野宿、閉会ミサまで休む暇もなく続く強行軍と暑い天気、疲れてしまう青年たちがますます増えていきました。一緒に参加できない残念さと申し訳ない気持ちに涙を流す青年たちを見ながら、もう一度その熱い信仰に感動するようになりました。

率直に言って、今まで韓国教会の青年たちとの関わりをもっとたくさん経験した私にとって、日本教会の青年たちは本当に熱心な青年たちが多くないという考えがありました。しかし、WYD で出会った日本教会の青年たちは、世界で最も信仰深い青年たちでした。本当に素直に神様を愛し、イエス様に従い、何よりも信仰に飢えている青年たちでした。

閉会ミサのために徒歩巡礼を準備するグループの青年たちに「私たち今まで毎日平均 25,000 歩を歩きました。もう 8km 歩きます。大丈夫ですか？ 辛くないですか？」と聞くと、予想外の答えが返ってきました。「イエス様に会いに行くのに何が大変ですか？ 幸せです！ 神父様は大変ですか？」一瞬、すごく恥ずかしくなりました。私が大変だから、青年たちの言い訳をしながら合理化をさせようとした自らの姿を発見することになりました。歩いて歩いて野宿場に到着し、若者たちと一緒に最後の夜を過ごしました。

WYD の最後の旅路である閉会ミサ。公式参加者だけで 35 万人。一緒にミサに参加した地域の信者まで合わせると約 150 万人。ミサを共同司式した司祭だけで 1 万人。

住む地域が異なり、言語が異なり、年齢も異なりますが、イエス・キリストという名によって集まった人々。ミサを捧げながら、司祭たちが共同で唱える部分を韓国語で唱える時、思わず涙が流れました。なぜか分かりませんが、ただずっと涙が流れました。御聖体をいただき座っていると、一瞬「これが一つのパンを食べ、一つの杯を飲み、一緒に分かち合う一つの信仰共同体だ」と思いました。説教の時や信者たちと話をする時、数え切れないほど話した言葉ですが、直接的に体験したことがなかった私にとって、この信仰体験は一生ものの信仰体験になりました。

WYD が終わって羽田空港で、私と一緒に同じグループで生活していたある青年がこう言いました。「私と一生の信仰体験を共にしてくださってありがとうございます」と。

2023 年 7 月 26 日から 8 月 9 日までの WYD に行ってきた、本当にいろいろなことを考えるようになりました。今回の WYD のテーマ「マリアは出かけて急いで山里に向かった」。最初は若者たちに何を話したいのか分からなかったのですが、ゆっくり、でもはっきりとその意味が分かりました。

初対面の気まずさも瞬間。すべてのプログラムに嬉しい気持ちで急いでイエス様に会いに出かける青年たちの姿。しばしの躊躇なく旅立つ巡礼の旅路。WYD は信仰人として、すべての人々にすべての者となったイエス・キリストに会いに出かける旅路でした。

私の初めての WYD 旅程は不安とときめきで始まり、充満で終わりました。振り返ってみると、司祭としてあまりにも多くの不足を感じた時間であり、その不足の中ですべてを満たしてくださる神様の現存を感じることができた時間でした。

京都教区の愛する皆さん。神様は私たちをいつも待っておられます。嬉しい知らせのために、急いで出かけることをお望みになります。神様の愛を心に秘めて、聖母マリアと一緒に、急いで神様に向かいましょう。